

IPSS日本支部 第24回沖縄大会へのお誘い

南九州大学 環境園芸学部 前田 隆昭



本大会は、2017年11月18日(土)と19日(日)の2日間沖縄県で初めて開催します。

1日目は琉球大学農学部を会場に特別講演・研究発表会・総会を行います。特別講演は、一般財団法人 沖縄美ら島財団総合研究センター 植物研究室 佐藤 裕之 研究員にご講演頂く予定です。講演内容は、『沖縄産カランコエを品種改良した「ちゅらら」誕生の経緯と今後の展望について』です。「ちゅらら」とは、絶滅危惧植物であるリュウキュウベンケイと園芸品種として従来から普及しているカランコエを交配して作った切り花用の園芸品種のことです。なお、会員のご家族の方々が多数ご参加される場合は、その方々のために、特別講演・研究発表会・総会の時間帯に本島中南部でのツアーを計画しています。

今回は見学を主体とした大会にしたいと考えていますので、1日目の午後から沖縄本島南部の熱帯果樹栽培農家を訪問する予定です。まずは、マンゴーを中心にパイア・パッションフルーツ・アテモヤ等の様々な熱帯果樹を栽培している熱田 守さんの園地を見学し、その後、アボカド栽培農家の金城 幸栄さんの園地を見学する予定です。金城さんは、マンゴーを栽培していましたが、近年、アボカドを積極的に導入し、見事に結実させています(ただし、見学時は収穫が終わっていますので、果実はありません)。見学後は那覇市内に戻り、琉球料理と琉球舞踊で有名な「四つ竹

久米店」にて懇親会を開催します。

2日目の午前中は、沖縄本島南部の造園木と熱帯花木(ハイビスカス・ブーゲンビリアなど)の現地を見学します。これらの現地は、苗木生産を行っており、県内の造園および園芸業者に出荷しています。昼食後、泡盛まさひろギャラリーにて、泡盛の試飲をして頂きます。その後、那覇空港に向かい15時30分頃到着して解散する予定です。

沖縄は、日本で唯一の亜熱帯地域であり、沖縄本島北部は、国内最大級の照葉樹林が広がる自然豊かな地域で、昨年「やんばる国立公園」に指定されました。また、美ら海水族館などもあります。那覇市内には世界遺産の首里城もあり、観光も兼ねてぜひとも参加頂きたく御案内申し上げます。今回は宿泊先や交通の斡旋、紹介等を行いません。オフシーズンとはいえ、週末の飛行機は混雑しますので、参加される方は早めの予約をお願いします。なお、那覇市内から大会会場および見学先へのバスは「スマイルホテル那覇シティリゾート」の駐車場から出発予定です。近隣のホテル等への宿泊をお勧めします。

たくさんの方々とお会いできることを楽しみに、心よりお待ちしております。

※裏表紙でも沖縄大会のご案内を掲載しております。ご覧ください。

目次

IPSS日本支部 第24回沖縄大会へのお誘い(前田 隆昭).....	1
『花咲きラクダ』(佐藤 伸吾)	2
Highlights of 20 Years on the IPSS International Board (Peter F Waugh)	3~4
タクト株式会社 事業案内(西川 滋)	5
最近樹木生産者から特にご評価いただいている資材のご紹介(南出 幹生).....	6
デンマーク、花卉園芸におけるロボット化(高臣 映生)	7~8

『花咲きラクダ』 *.....*.....*.....*.....*



有限会社花街道 佐藤 伸吾



滋賀県の佐藤です。会に参加、協力も出来ず大変失礼しております。現在は長らく携わってきた花関連の仕事から離れ、一時休業中です。

三菱化成・菱化農芸・三菱樹脂と三菱ケミカルグループが30年にわたり継承してきた『花咲きラクダ』事業は来年3月をもって三菱の手を離れます。

このたびは『花咲きラクダ』について、お話しさせていただきます。

1990年に開催された大阪国際花と緑の博覧会場周辺の高速道路施設を花で飾る試みがネクスコ(旧道路公団)と三菱化成の共同研究で始まり、修景を試みて特に問題となったのは、料金所をはじめとした施設に花を植える場所もなく灌水設備も整っていませんでした。また通行の絶えない場所での設置・交換・メンテナンスは簡易で時短が求められ、新しいプランターの開発が始まりました。省メンテナンス技法が検討され、1992年構造も作業も単純な底面吸水プランター『花咲きラクダ』が生まれました。

平成4年に販売開始以来、高速道路、公園広場、工場、町中、店先などで現在約2万プランターを利用いただいております。

新しいデザインのプランター要望もありましたが、製造するための金型は大変高価で生産開

始当初のままの型で製造しています。近年は木枠カバーなど工夫してお使いいただいている所が多く見られます。使用できる花の種類を増やすことで変化を感じていただく努力をしてきましたが、見栄えが良く、強健で手入れも楽、そして底面吸水に向いている植物の選択には苦勞しています。

その他、吸水効率向上の改良、長期鑑賞を維持するための肥料などいくつかの改良を重ねてきましたが、まだまだ課題が残っています。

プランターを製造している岐阜プラスチック工業社、プラグ苗供給のエム・アンド・ビー・フローラ社、花苗生産をしてきた各農家は、総まとめ役の三菱ケミカルがなくなり、新たな『花咲きラクダ』の世界へと大きく変革していくこととなりそうです。

2020年の東京オリンピックは真夏の開催、『花咲きラクダ』もエントリーしています。最高のパフォーマンスを演出できる機会を夢見ています。

私と花咲きラクダの縁もまだまだ切れそうもありません。

経験豊富な会員の皆様のお知恵をお借りする機会も多くなるかと思えます。

今後ともよろしくお願いたします。



お台場



テラスカフェ



夏苗挑戦



I P P S 国際委員会に参加した 20 年間の印象深い思い出

Highlights of 20 Years on the IPPS International Board

ピーター・ウォー

I P P S ニュージーランド支部 Peter Waugh



International Plant Propagator Society (IPPS) NZ Region member Peter Waugh looks back on over 30 years involvement and in particular 20 years with the society internationally including representing Japan at Board level.

Peter commenced going to Japan in 1995, has attended Japanese board meetings, has been acting as Japanese alternate director for a number of years and has been their full director from the early 2000s.

Peter has been a New Zealand IPPS member and president, an Australian region member, has attended conferences, field days and met members from all the world regions. He received the John Follett Award of Merit New Zealand 2010, Award of Honour Australia 2011 and the Steve Valance Memorial Award in 2017.

The following photo selection is from international and regional board meetings and tours. He has all regions meetings at least twice during the 30 years. He continues to be impressed by the range of activities each region organises.

Over the years Peter Waugh has made many life-long friends and will always be part of the Japan IPPS region.

国際植物増殖者会議 (I P P S) ニュージーランド支部の会員であるピーター・ウォー氏が、30年以上にわたる活動への関わり、特に日本支部の国際理事を務めるなど、国際的にI P P Sに携わった20年間を振り返ります。

ピーターが初めて日本を訪問したのは1995年、それ以来、日本支部の理事会に出席し、長年にわたって日本支部の理事代理を務めており、2000年代初めからは日本支部の理事であります。

ピーターはI P P Sニュージーランド支部の会員、会長経験者で、オーストラリア支部の会員でもあり、大会や現地見学会に参加し、世界各地の支部会員の方々にお目にかかってきました。2010年にはニュージーランドのジョン・フォレット賞、2011年にはオーストラリアの栄誉賞、2017年にはスティーブ・ヴァランス記念賞を受賞しました。

国際委員会や各支部の理事会、視察旅行の様子を写真でご紹介します。この30年間で全支部の会議に少なくとも2回ずつ参加しました。各支部が企画される多彩な活動にはいつも感銘を受けています。

長年にわたり数多くの生涯の友を得たピーター・ウォー氏は、これからもずっとI P P S日本支部の一員であり続けます。





アメリカ 典型的な IPPS の国際的な視察旅行の集合写真。
後列右端がピーター・ウォー氏。



アメリカ 広大な 300 ～ 400 エーカー規模の土地で行われている
木本植物の屋外での増殖(2007年)。



南アフリカ ヨハネスブルグの一般的な高木や低木を扱う
園芸店で植物増殖作業中の風景(2005年)。



南アフリカ カーステンボッシュ植物園で試験中の
ディサ・ユニフローラというランの栽培品種(2005年)。



アメリカ 花を咲かせる観賞用低木の鉢植え作業を屋外で
行う人々(2015年)。



南アフリカ ビニールハウス内のプラントプラグを利用した
増殖。頭上の暖房用ダクトに注目(2005年)。



オーストラリア クイーンズランドのグラスファイバー製温室で
行われている観葉植物、スキндаブサスの生産
(2003年)。



オーストラリア ニューサウスウェールズ州
北部の芝生産試作場(2005年秋)。



日本 ラン生産について詳細に説明する武田博士
(IPPS 日本支部設立当初の会員の一人)と、
熱心に耳を傾ける日本の園芸家(2008年)。

タクト株式会社 事業案内

タクト株式会社 代表取締役 西川 滋



I P P S原稿を突然に赤塚植物園の藤森さんに依頼されびっくりしたのと少々困惑しました。最近海外にあまり出かけず植物の調査、視察をしていませんので、まずは当社の事業内容を皆様に簡単にお伝えいたします。

タクト株式会社は本年度34期を迎えます。事業内容は主に次の3つの事業で構成されています。

1. 生協、通販業者、コンビニに対してのカタログ販売
 2. ホームセンターを中心とする量販店への植物卸業務
 3. 生産者に対する苗の供給（観葉植物の苗を中心に現在約15ヵ国からの取引実績）
海外からのレア植物の管理販売。
1. と2. の業務に関しては自社出荷場にて梱包発送業務をしています。



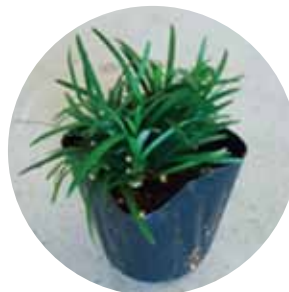
今回皆様に報告させて頂くのは、会社として3.の事業で現在取り組んでいる玉竜 (ophiopogon japonicas) プロジェクトを紹介いたします。

当社はフィリピンの高地で少しずつ増殖し、現在50万株の玉竜の苗を生産しています。目標としては100万株の苗を準備しようと考えています。

玉竜の苗はみなさんご存じのように株分けで増やしています。その為、親株の確保維持が必要とされます。そこで、海外で親株を生産しようと3年ほど前に始めました。玉竜は現在鹿児島県、三重県、千葉県でもかなり生産されていますが、今後の東京オリンピックの植栽にも需要があるのではないかと考えています。現在自社の農場ではまずは量販向けとして25cm×25cmのマット状のトレーと2.5cmポットを中心に生産をしています。当初はマットの状態での輸入をしようとも考えましたが、植物検疫や輸送費用の問題を考え、今は根をカットした状態の芽を輸入しています。

フィリピンでの生育環境や当社での生産状況等まだまだ多くの問題を抱えています。

苗の入荷時期のタイミングや株の大きさ、時期による根の生育状況、出荷のタイミング等現在は当社の農場で色々な試験をしています。苗の供給体制が整った段階と生産販売体制の目処がついた段階で造園業者、生産者の皆様に提案出来ればと考えています。



最近樹木生産者から特にご評価いただいている 資材のご紹介

南出株式会社 代表取締役 南出 幹生



自社製品ではありませんが、最近非常に評価が高まり、採用されるお客様が増えているネット・シートを案内させていただきます。

1 フララ〈下垂式遮光ネット〉～快適な木漏れ日環境を作り出します～



60cm巾 x 50m巻

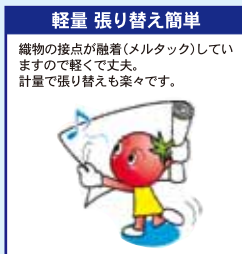
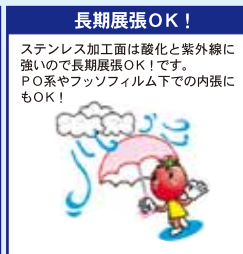


特徴

- 垂直張りのため通気性・通水性が抜群です ● 設置間隔の調整で遮光率を自由に変えられます
- 風が抜けるので躯体の負担が軽減されます

2 スーパーステンレス スパッタリングシート

～世界ではじめて繊維をスパッタリング加工した画期的商品です～



強化ネット 4S ステンレスネットコラポ 60 遮光率 55～60%

鈴鹿市内のハウス内張りに使用し、挿し木栽培に画期的な成果を上げています。

3 クロスラムシート

～高強度 1 2 層
プラスチックフィルム～



特徴

- 超軽量で取り扱いが容易です 0.12kg/m²、9×9m約10kg
- 紫外線に強く、丈夫で長持ちします ※福島県で6年継続使用中です
- 折り目切れせず、防水性が抜群です ● 耐寒性も抜群、マイナス35度にも耐えます

～裁断・溶着により、ご注文のサイズで制作できます。周囲にハドメ加工もできます。～

デンマーク、花卉園芸におけるロボット化

(株)ハクサン・ホールディング 会長 高臣 映生



今年2017年はデンマークと日本の外交関係樹立150周年を迎えました。デンマークの花卉園芸も日本へ紹介され、4半世紀が経とうとしている。

筆者が赤塚植物園時代に派遣され、初めてヨーロッパの園芸を経験した時代、園芸はオランダ、ドイツ、ベルギーが先駆者であるといわれていたが、小国のデンマークが技術的な面、ロジスティックの面でもオランダと競っていたことに驚かされた。

当時はまだローリングテーブルからモバイルベンチシステムへの転換期であったが、日本では全く見られなかった。生産者の数も当時には小型、家族経営から企業的な経営タイプとさまざまあり、1980年ころは1,200軒ほどの花卉栽培戸数であった。しかしながら、その頃すでに小型のコンピューター制御による温室は普及していた。その後、国民のほとんどが納得しているが、引き続き上昇する消費税(25%)や所得税(45%から60%)の上昇により(参考サイト：<http://www.tochikatsuyou.com/adviser/10/blog/692/>)、生産業のコストで人件費は経営者にとって最も高いコストに入るため、人力に頼らないため、そして隣国との激しい競合に勝ち抜くため、量産体制、機械化による合理化が図られてきた。

その結果、小型経営、家族経営はそのほとんどが成り立たなくなり、温室生産者数は激減し、2010年頃には500軒を割り込み、以降大型経営による量産体制が始まった。現在に至っては、300軒を割ってきている。それでもなおかつ、今日では大型経営でも倒産する状況である。

デンマークの今日の生き残り策は、完全なるロボット化で安値競争にかけるか、育種事業による他社にできない品種の作出、あるいは

は両方を備えた経営が求められている。

デンマークはEU圏での北端で、立地条件や市場条件が非常に恵まれているオランダと競合していくためには非常に厳しい条件である。それでもなお競合できるのは、上述した技術革新への研究と開発に基づくものがある。

播種はすでに昔から機械化されていたが、挿し木からもロボットの目で見、人手無しでプラグ化され、ピンチ、場所広げ、品質チェック、梱包から出荷準備等全てが機械、ロボットに頼り温室内労働者の数が激減してきている。しかし総合生産面積は30年前40年前より増加している。

機械化ロボット化して量産化が実現しているが、品質のそのもとなるのは生産者のノウハウが基本であるのは言うまでも無い。

典型的なロボットの利用法を具体的に写真で紹介しましょう。



数年前に実用化されたミニバラの出荷選別とパッキングを一台でこなすデンソーのロボットアーム (made in Japan!!)



デンマークカクタスの挿し木ロボット：中央の黒いアームで苗の上下、サイズを選抜し左のデンソーのアームでプラグにさすロボットシステム。（デンソー）



バラバラで流れ込んでくるカンパニュラの穂木を選抜し挿し木するロボット。（デンソー）

第24回 沖縄大会



泡盛まさひろギャラリー



泡盛まさひろギャラリー内の泡盛の数々



首里城



美ら海水族館



バスの出発場所

懇親会場
四つ竹久米店

IPPS-Jの大会予定

※大会を開催したい方は早めに事務局へ申し出てください。

- 2017年11月18日(土)～19日(日) —— 第24回 沖縄大会 (担当：南九州大学 前田隆昭先生)、沖縄県
- 2018年11月24日(土)～25日(日) —— 第25回 和歌山大会 (担当：近畿大学 文室政彦先生)、和歌山県白浜町
- 2019年 —— 第26回 三重大会 (担当：(株)赤塚植物園 藤森忠雄)、三重県津市
- 2020年 —— 第27回 IPPSの国際大会が日本で開催となります。

編集後記

この編集後記を書くのが最後になりました。この業務を与えてくれました、IPPS-Jの理事のお皆さんや編集にご協力いただきましたすべての会員の皆様に厚くお礼申し上げます。

2005年(平成17年)7月に、25号の発行を引き受けました。なぜ引き受けたのか今ではよく覚えていませんが、兎に角、この60号までの36回、何とか皆様のご協力をいただき発行できたこと、大変に嬉しく思います。当初は年3回の発行でしたが2回にさせていただきました。その代わりにカラーの印刷で皆様の原稿をより魅力的にしました。この業務をさせていただき、多くのことを学ばせて頂きましたことに感謝いたします。

また、ピーターさんを初めとして、IPPS-Jの海外の会員との交流をさせていただいたことは大変に有意義な事でした。オーストラリアへ植物の買い付けに出掛けた時には、現地の会員の皆さんに大変にお世話になり、また楽しいひと時を過ごさせていただきました。

このIPPS-Jの組織は自分から積極的に会員に働きかけるとしてもよらない貴重な収穫をいただく事が出来ます。それは会員が植物に関わっている、若い人から年配者まで、生産者から大学の先生まで、当然、海外の人達との交流が可能な会員構成だからでしょう。会員の皆様がそれぞれの立場でこの組織を十分に活用されることをお祈りいたします。有難うございました。

ニュースレター担当：藤森忠雄